四小だより　　平成２７年１２月　２日号

いちょう

山形市立第四小学校
校長　坂本　澄子

〒990-0055　山形市相生町４番３７号　TEL 623-6019　FAX 633-9321　＜児童数　１８３名＞

「明るさ」をテーマに きぼう学年 階段アートに挑戦！

１２月に入りました。師走ということで何かと気ぜわしさを感じる時期ですが、子どもたちはじっくりと２学期のまとめに取り組んでいます。

今年、６年きぼう学年が総合の学習で取り組んでいるのが、本校北校舎の階段アートです。「階段アートで明るい雰囲気にしたい」という強い思いをみんなで何度も話し合い、使うモチーフはもちろん、そこを通る人たちの気持ちにまで思いを寄せて原画を構想していきました。４つのグループで考えた原案について、お互いに質問意見をくり返し、絵に込めた願いを確かめていきました。

そしてできた４つのアート。先日、子どもたちのプレゼンを受けて、それぞれの絵に対する熱い思いを知りました。「１，２年生が上る階段なので・・・」「幸せの青い鳥が太陽に向かって・・・」「ひまわりの枝を抽象的においてみました」「四小の一人一人が糸で、その糸が集まった太い幹を表しています」というように、自分たちだけの考えに閉じず、他のグループからの意見も聞いて修正を重ねてできた４つの作品は、どれも明るさと楽しさと希望に向かって前へ進む力強さを象徴していました。

このきぼう学年の階段アートは、校舎と共に今後もずっと受け継がれていくものです。最後まで思いを込めて制作にあたり、完成をめざしてほしいと思います。学校にお越しの際は、どうぞご覧になってください。

「どうして階段アートなの？」
校長交渉で熱く語る子どもたち

原画制作に向けて東階段の高さを測定

交通指導員さんへ どんな言葉・態度で感謝を表す？！

１２月に入り、朝晩の冷え込みが一段と厳しくなり、登校する子どもたちの服装も厚手の防寒具や手袋、マフラーが目立ってきました。

これからますます寒さが増すこの時期、毎朝笑顔で子どもたちを見守り指導してくださる交通指導員さんへ感謝の気持ちを伝える会を１１月２４日に行いました。七日町交差点の菅江さん、大手町交差点の佐藤さん、グラウンド南側手押し信号の山岸さん、明徳予備校前の石山さん、そして学校北門前の村井さんの５名の皆さんに、子どもたちから感謝の言葉と花のプレゼント、「手のひらをかざして」の合唱をお贈りしました。

お陰様で、今年は一人も事故に遭うことなく元気に生活することができています。しかし、先日登校途中に滑って転んで顔をけがするという事案が２件続けてありました。これから雪が降り、道路が凍結する季節、今まで以上にルールを守り、安全に気をつけて登下校しなければなりません。指導員の石山さんからも、ポケットに手を入れないで足元に十分気をつけて歩くようにというお話がありました。

今日の感謝の会だけでなく、これから指導員さんへの感謝の気持ちを、どんな言葉や態度で表していくのかを一人一人が考えて実行にうつしてほしいと願っています。

＜１２月１日　全校朝会の校長講話＞

「言葉はいのち」
～言葉で 人とつながる～

皆さんは「ヘレンケラー」を知っていますか。１歳の時に病気で目が見えなくなり、耳も聞こえなくなりました。人は、自分の声を耳で聞いて初めて話せるようになります。ですから、聞こえないと言葉を覚えられないし、話すことができません。ヘレンケラーは、１歳にして「見ること」も「聞くこと」も「話すこと」もできなくなったのです。何も見えない、聞こえない、言葉も話せないという状況を皆さんは想像できますか。真っ暗な世界、静かでひとりぼっち・・・しかし、ヘレンケラーは、家庭教師のサリバン先生と出会って、苦労の末に言葉を覚え、自分の思いを伝えることができるようになりました。

これはアメリカの昔の話ですが、現在、日本にもヘレンケラーのような方がいます。福島智さんといいます。福島さんは現在５３歳です。３歳の時に右目の視力を、９歳で左目の視力を失い全盲になりました。さらに、病気が進み１８歳で耳も聞こえなくなりました。しかし、福島さんは、９歳までは見えていたし、１８歳までは耳も聞こえましたので、話すことはできます。人一倍勉強して大学に合格し、今は、東京大学の教授をされています。目が見えなくて耳が聞こえないので、映画を見ることも音楽を聴くこともテレビを見ることもできません。それで、福島さんは本を読んで世界とつながろうとしました。えっ？目が見えないのに、どうやって本を読むの？と思うでしょう。福島さんは、インターネットの「点字図書館」を利用して本を読むのだそうです。皆さんは「点字」を知っていますか。目の見えない人が、紙に打ち出したブツブツしたものを指で触って読むものです。インターネットの「点字図書館」は電子データがブツブツしたものに変換されるのだそうです。でも、読むのに人の３倍時間がかかるそうです。

福島さんにとって光と音のない世界はどん底に落ち込んだ気持ちでした。でも、いつもお母さんがそばにいて、手に指で言葉を打ってくれたので人の話を理解することができました。（「指点字」というそうです。）今も、通訳の人に手に触れてもらい、言葉を伝えてもらって会話をしています。指点字でコミュニケーションしているのです。しかし、手を離した瞬間、話が聞き取れなくなります。だから、福島さんにとって「言葉は命」、人と関わり合うことは、食べ物や水や空気と同じくらい重要だそうです。「言葉」が自分を生かしているとまで言っています。

私たちが毎日生活していく時も、言葉はとても大切なものです。人と言葉でコミュニケーションを取りながらくらしをつくっているからです。誰とも話をしないで生活するなんて考えられませんね。一方で、言葉は難しいものでもあります。一度発した言葉はもとには戻せないからです。時には相手を傷つけたり、誤解をまねいたりすることもあります。今は、メールやスマホで直接会わずに会話ができる時代ですが、私たちは目が見えるから相手の表情もわかるし、耳が聞こえるから声で怒っているか喜んでいるかがわかる、そして、言葉も話せる。当たり前のようですが、言葉でコミュニケーションできる幸せを感じなければなりません。

学校では、学級やクルーズ班の友だちと言葉をとおして思いを伝えたり相手の思いを理解したりしながら、よりよいつながりをつくろうとしています。これからも、言葉を大事にし、周りのたくさんの人と言葉を交わしてよりよいくらしをつくっていきましょう。